



平成27年度国公立大学附属病院医療安全セミナー開催報告

大阪大学コンベンションセンターに、全国116大学附属病院等から443名の参加者を迎え、平成27年度国公立大学附属病院医療安全セミナー（文部科学省後援）を開催しました。

中心テーマの一つとして「レジリエンス・エンジニアリングの医療安全への展開」を取り上げ、臨床業務の複雑性を捉え、うまくいっていることから学ぶ方法について理解を深めました。本院の多職種手術チームメンバーによる講演では、手術の進行に応じて適切なノンテクニカルスキルを発揮し、レジリエントなチームを形成する方法が紹介されました。

他業種のエキスパートから学ぶセッションでは、全日本空輸株式会社の土方健次郎主席から、航空機整備を例にマニュアルと実践の一致にチームで取り組む方法について、大阪ガス株式会社ビジネスアナリシスセンターの河本薫所長から、現場に役立つデータ分析と活用方法について講義があり、この他、医師・弁護士による医療模擬裁判や、本年度創設の医療事故調査制度に関連したセッション等を設け、講師や参加者の皆さんと意見交換をしました。

BMJグループとの特別な契約に基づき、大阪大学が2010年から本セミナー等と同時に開催で主催してきた「国際医療の質・安全学会遠隔地参加プログラム」（医療の質・安全に関する国際学会のうち最大規模の“International Forum on Quality & Safety in Healthcare”のプログラムの一つ）は今回で最終回となり、新しい角度から医療の質・安全を考察し、好評のうちに終了しました。ここでは、そのハイライトを紹介します。

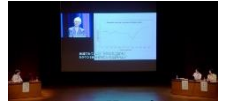
国際医療の質・安全学会2014 第5回遠隔地参加プログラム より **The Future of Patient Safety: Seeing safety through the patient's eyes** ～患者安全の未来～患者の視点から安全を考える～

ナビゲーター

大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部 副部長・助教 **北村温美**

特別コメンテーター

横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター 准教授（担当部長） **中村京太** 先生



講演：Charles Vincent, Ph.D.

臨床心理学者、インベリアル・カレッジ・ロンドン名誉教授、
HIHRシニア研究員、オックスフォード大学実験心理学講座専門研究員



英国の臨床心理学者で医療安全の大家であるCharles Vincent 博士は、これからの医療安全に必要な新しい視点として「**Patient Journey**」と「**医療における多様なリスク管理モデル**」を提示した。（日本語字幕作成：中央QM部）

これまでの医療安全対策

病院におけるインシデントや有害事象のみを、医療者の視点で検証し、『決められた手順を100%遵守すること』を最大の目標としてきた。



これからの医療安全対策

大切なことは、

- ① **患者にとっての「損害」をもっと幅広く捉えること**（適切な治療がなされなかったことによる損害、心理的な損害、在宅医療での損害なども捉えるべき）。
- ② 医療現場の多様な**リスク管理モデル**や、それらが**状況によってダイナミックに変動すること**をよく理解しておくこと。

裏面に続く

視点1 <Patient journey >

これからの医療安全には「Patient journey」患者の視点を盛り込む必要がある

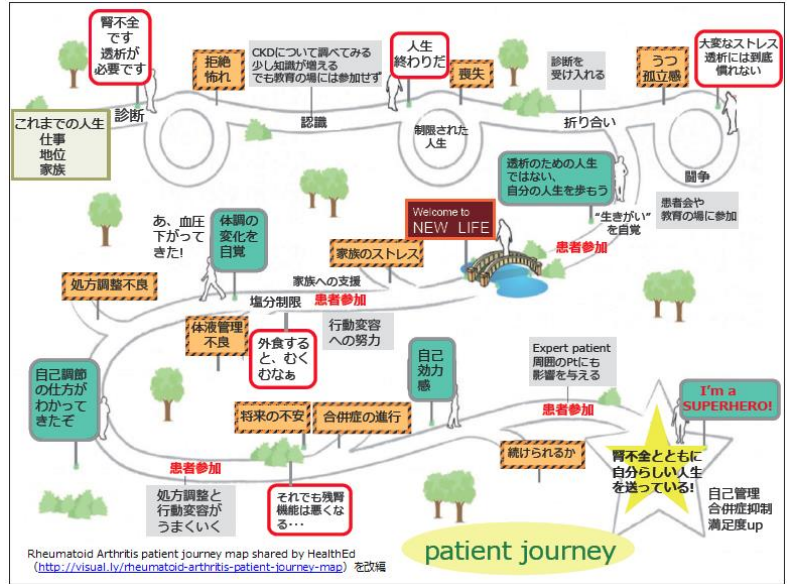
- これまでの患者の人生や価値観・疾患の受容度を踏まえて患者とともに治療方針を決定し、教育すること
- 急性期医療だけではなく、在宅医療などのサポート体制を整えること
- 将来を予測し対応を話し合うこと
- 併存する疾患を把握すること



1. 患者の視点で医療の質と安全を考えたとき、**治療への患者参加**が必要不可欠である。
2. これらを**包括的にマネジメントし、患者の損害を最小限にするようなケアシステムを構築**すること。



腎不全患者の patient journey の例



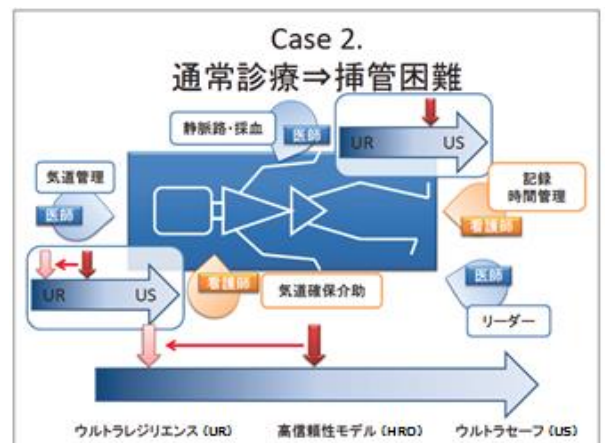
視点2 <医療における多様なリスク管理モデル>

診療場面は多様であり、かつ、ダイナミックに変動することを前提に医療安全に取り組む必要がある

Vincent 博士は、様々なリスク管理モデルを次の3つに分類した。

- **ウルトラレジリエンス (UR)**
- **高信頼性モデル (HRO)**
- **ウルトラセーフ (US)**

これを受けて、特別コメンテーターの中村京太先生は、救急医療におけるリスク管理は、一つの診療場面においても、個々の手順にはこれらの3モデルが混在していること、かつ、状況により個々の作業やチーム全体のリスク管理モデルが**ダイナミックに変動**することを、実臨床例を交えて映像を使いながら解説した。



中村京太先生のご解説資料より